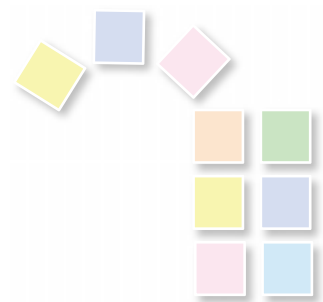


I 就学前教育カリキュラムから (抜粋)



第1章 総説



1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

(1) 乳幼児期の教育の重要性

人の一生において、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。乳幼児期の子供は、生活や遊びにおける直接的・具体的な体験を通して情緒的・知的な発達や社会性を涵養し、人間として、社会の一員としてよりよく生きるための基礎を獲得していきます。

そのため、乳幼児期の教育は、改正された教育基本法において、その重要性が規定されるとともに、新しい保育所保育指針や幼稚園教育要領において、義務教育及びその後の教育（生活や学び）の基礎を培うものとして、次のように示されています。

【保育所保育指針】(平成20年3月告示)

○第2章 子どもの発達

1 乳幼児期の発達の特性

(六) 乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探究心や思考力が養われる。また、それらがその後の生活や学びの基礎になる。

【幼稚園教育要領】(平成20年3月告示)

○第1章 総則

第2 教育課程の編成

幼稚園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1に示す幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。幼稚園は、このことにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとする。

(2) 子供の発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実

現在、東京都には、保育所、幼稚園、認定こども園（以下、保育所や幼稚園等という。）といった乳幼児のための保育・教育施設があり、都内に住む3歳児から5歳児の約94%（平成21年5月現在）が在籍しています。幼稚園では、幼稚園教育要領に基づいた教育が行われ、保育所では、保育所保育指針に基づき養護と教育を一体とした保育が行われています。この保育所保育指針のうち、3歳以上の幼児の教育内容については、幼稚園教育要領との整合性を保ちながら定められています。また、認定こども園では、保育所保育指針及び幼稚園教育要領に基づいた保育・教育が行われています。

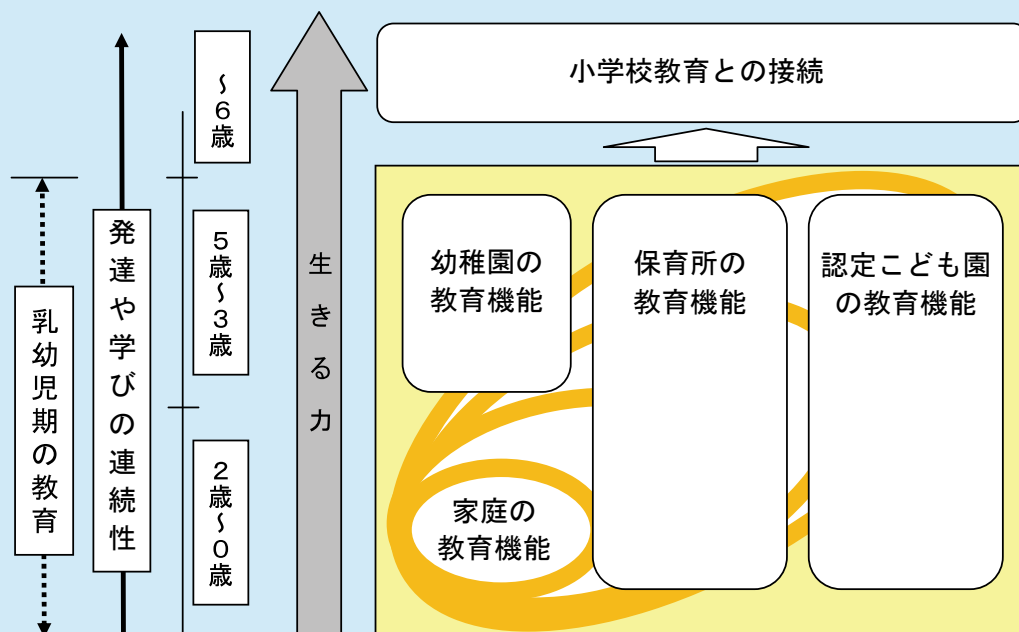
この保育所保育指針及び幼稚園教育要領に基づいて、保育所や幼稚園等で行われている就学前の乳幼児期の保育・教育（以下、就学前教育という。）は、子供の発達の特性に照らして、自発的な活動としての遊びを中心にした生活を重ねられるように環境を構成し、一人一人に応じた総合的な教育を行っています。一方、小学校では、時間割を設定し、学習指導要領に基づき教科書等の教材を用いて各教科等の学習をしています。

このように保育所や幼稚園等と小学校とでは、子供の生活や教育の内容・方法などが異なっており、これらに対応できない子供の姿も見受けられます。こうしたことが、いわゆる「小1問題」と言われる小学校第1学年における児童の不適応状況の要因の一つになっているとも考えられます。

しかし、本来、子供の発達や学びは連続しているものであり、就学前教育と小学校教育との円滑な接続が図られれば、こうした問題を解決することの一つの手だてになると考えます。

そのため、生涯にわたって必要とされる生きる力を育成することを、就学前教育と小学校教育を接続する「軸」に据え、子供の発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実を図っていく必要があります。

【イメージ図】 生きる力の育成を「軸」に据えた
子供の発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実



なお、保育課程及び教育課程の編成については、保育所保育指針及び幼稚園教育要領において、次のように明記されています。

【保育所保育指針】

○第4章 保育の計画及び評価

1 保育の計画

ウ 保育課程は、子どもの生活の連続性や発達の連続性に留意し、各保育所が創意工夫して保育できるよう、編成されなければならない。

【幼稚園教育要領】

○第1章 総則

第2 教育課程の編成

1 幼稚園生活の全体を通して第2章に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間や幼児の生活経験や発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織しなければならないこと。この場合においては、特に、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮しなければならないこと。

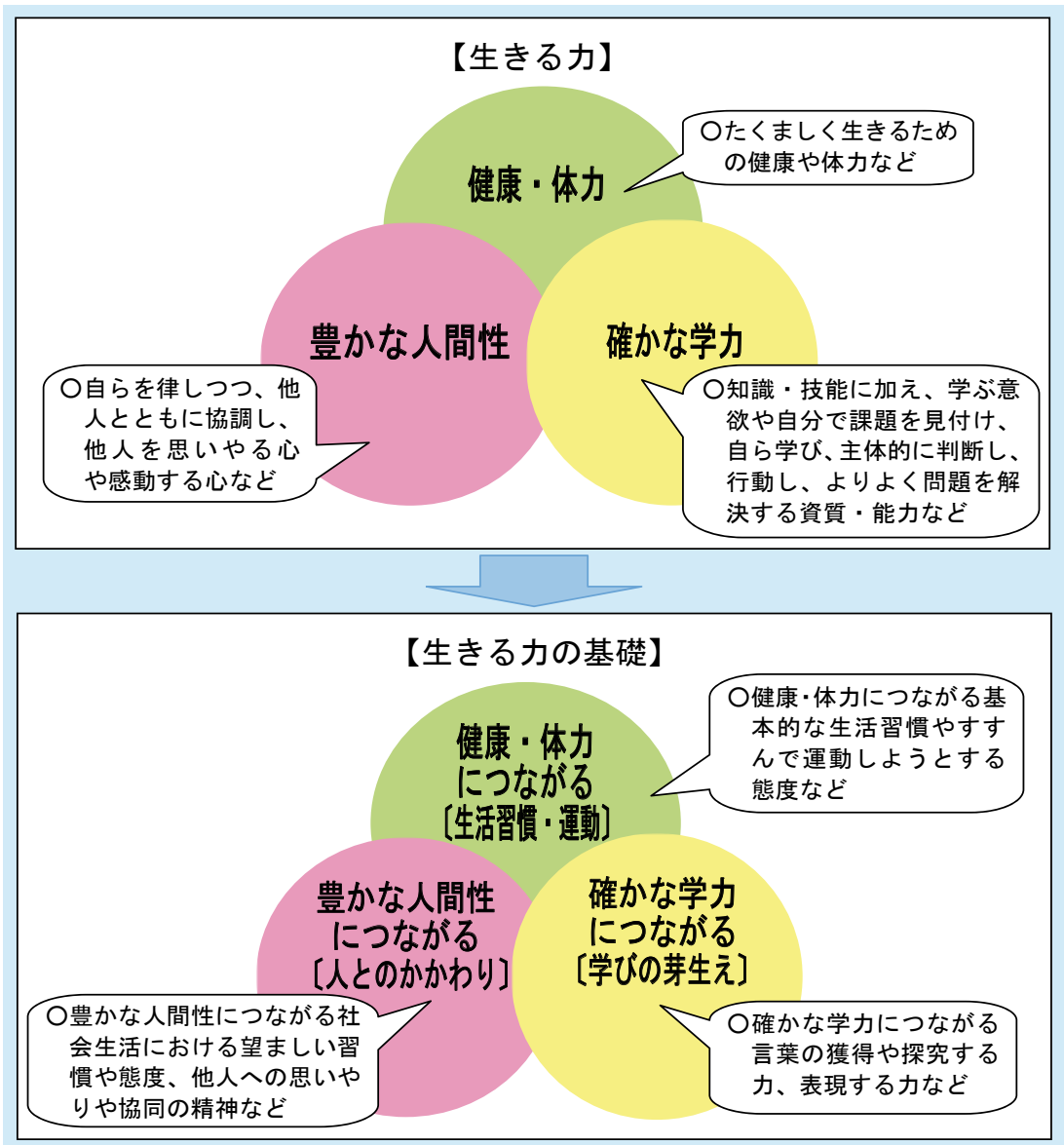
2 就学前教育カリキュラムの基本的な考え方

(1) 生きる力の基礎を身に付けた子供像

就学前の乳幼児期は、義務教育及びその後の教育の基礎を培う時期です。そのため、乳幼児期の教育は、知識や技能に加え、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」から成る生きる力の基礎を培う役割を担っています。

そのため、本カリキュラムは、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導例を示したもので、各保育所や幼稚園等が編成する保育課程や教育課程に相当するものです。

本カリキュラムの開発に当たっては、子供に培いたい生きる力の基礎について、次の図のように捉えました。



また、生きる力の基礎として捉えた、確かな学力につながる〔学びの芽生え〕、豊かな人間性につながる〔人とのかかわり〕、健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕といった資質・能力を身に付けた子供像について、次のように設定しました。

確かな学力につながる〔学びの芽生え〕を身に付けた子供像

- 興味や関心をもったことに主体的にかかわったり、そのことを遊びに取り入れたりする。
- 自分の考えを相手に分かるように伝えたり、友達や先生の話に関心をもってすすんで聞いたりする。
- 目的に向かって繰り返し考えたり、試したりしながら最後までやり遂げる。
- 経験したことを取り入れたり、身近な物や用具などの性質や仕組みを生かしたりして遊びや課題に取り組む。
- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを、様々な表現方法で自由に表現することを楽しむ。

豊かな人間性につながる〔人とのかかわり〕を身に付けた子供像

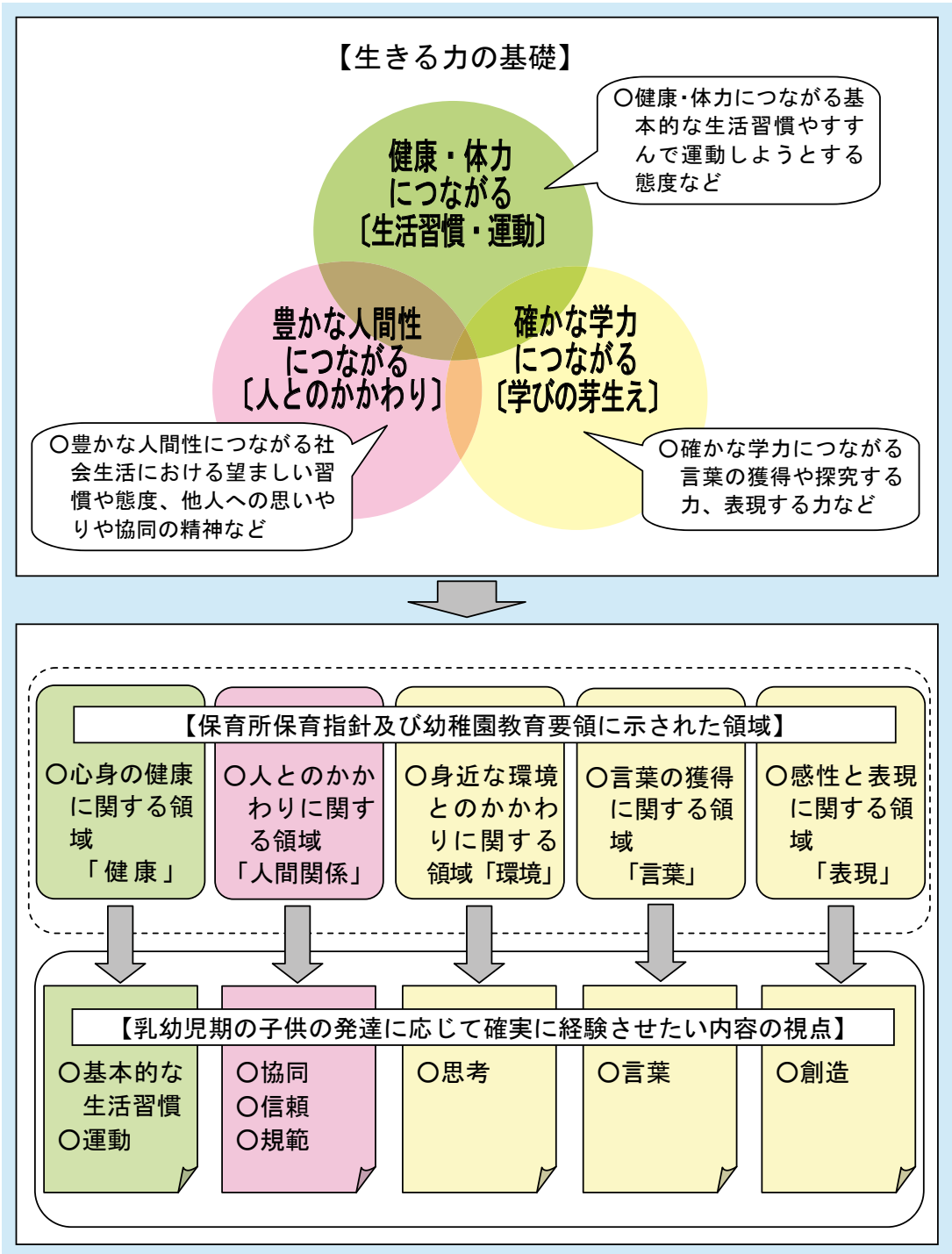
- 様々な人への信頼感をもち、自分の思いや考えを伸び伸びと表現する。
- 友達の思いや考えを受け止め、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- 友達と互いのよさを感じながら協力したり、一緒に解決策を考えたりしながら遊びを進める。
- 相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いことの区別などを考えたり、自分の気持ちを調整したりして行動する。
- 動植物など命のあるものを大切にする。

健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕を身に付けた子供像

- 衣服の着脱、食事、排せつ、片付けなど生活に必要な行動の大切さに気付き、自分のことは自分でする。
- 体を動かす心地よさを味わい、自分からすすんで遊ぼうとする。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の様々な部位を十分に動かす。
- 友達や保育者と一緒に食べることを楽しむ。
- 集団での生活の流れなどを予測して、自分たちの活動に見通しをもって取り組む。

(2) 乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点

本カリキュラムでは、保育所保育指針及び幼稚園教育要領に示された「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五つの領域について、小学校教育との接続を踏まえながら生きる力の基礎を培う観点から、乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点を次のように設定しました。



そして、乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨を次のように捉えました。

乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨

生きる力の基礎	確かな学力につながる 〔学びの芽生え〕	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然と触れ合い、様々な事象に興味や関心をもつこと 周囲の環境に好奇心や探究心をもってかかわり、遊びや生活に取り入れようとする 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する興味や関心をもつこと
		言葉	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現すること 相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を身に付けること 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付くこと
		創造	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなものの美しさなどに出会い、様々に表現することなどを通して豊かな感性をもつこと 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむこと いろいろな素材や表現の手段の特性を知り、表現する楽しさを味わうこと
	豊かな人間性につながる 〔人のかかわり〕	協同	<ul style="list-style-type: none"> 自ら行動しようとする 他の幼児と共に活動する楽しさを味わうこと 共通の目的が実現する喜びを感じる
		信頼	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感情や意思を表現すること 相手の思いや考えを感じたり受け入れたりすること 人に対する信頼感や思いやりの気持ちをもつこと 自信をもって行動できるようにすること
		規範	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な約束やルールを身に付けること よいことや悪いことに気付き、考えながら行動すること 自分の気持ちを調整すること 相手を尊重する気持ちをもって行動すること
	健康・体力につながる 〔生活習慣・運動〕	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分でしようとする 見通しをもって行動しようとする 安全や健康に気を付けて行動しようとする
		運動	<ul style="list-style-type: none"> 体を十分に動かし、すすんで運動しようとする 体を動かす楽しさや気持ちよさを感じる 競い合う楽しさやみんなで遊ぶ充実感を味わう

(3) 乳幼児期の子供の発達過程の区分についての考え方

本カリキュラムにおける乳幼児期の子供の発達過程の区分については、保育所保育指針を参考に、次のように設定しました。

発達過程の区分	発達の特徴
<p>おおむね6か月未満</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。 ○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的にかかわる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。
<p>おおむね6か月から1歳3か月未満</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。 ○特定の大人との応答的にかかわりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。 ○身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 ○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。
<p>おおむね1歳3か月から2歳未満</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩き始め、手を使い、言葉話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働き掛けていく。 ○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働き掛ける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物とのかかわりが強まる。 ○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。 ○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。
<p>おおむね2歳</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。 ○排せつの自立のための身体的機能が整ってくる。 ○発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ○盛んに模倣し、物事間の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
<p>3歳児</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。
<p>4歳児</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。
<p>5歳児</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指先の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しをもち、友達と相談しながら活動を発展させていくようになる。 ○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。

(4) 0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容

発達の特徴		おおむね6か月未満 たぐい飲んで、ぐっすり眠れるように	おおむね6か月から1歳3か月未満 身の回りへの興味の芽生えを大切に	おおむね1歳3ヶ月から2歳未満 自分からかかわろうとする姿を大切に	おおむね2歳 じぶんでできた！を大切に
生きる力の基礎と 子供の発達に応じて 確実に経験させたい 内容の視点	思考 興味・関心 好奇心 探究心 など	○音が聞く、物を見る、握る、つかむ、しゃぶるなどの動きを十分にさせる。	○戸外に出ることや散歩に行くことを喜び、周囲の物事や動物などに興味を示す。 ○興味のある所へ自分で移動し、触る、なめる、見る、登る、降りる、押す、引っ張るなどして遊ぶ。 ○保育者に見守られながら、遊具や身の回りのもので一人遊びを十分にさせる。	○戸外の自然に触れながら、植物や小動物などに関心をもつ。	○戸外で花や石など、自分の気に入ったものを手に取って遊ぶことを喜び。
	言葉 話す・聞く 伝え合う 言葉に対する感覚 など	○機嫌のよいときには盛んに喃語で話す。	○保育者のすることに興味をもって、動作をまねたり、いろいろな音声や音節を繰り返したりする。 ○保育者に優しく語り掛けられることにより、喜んで声を出したり、応えようとしたりする。	○室内、戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ○保育者の話し掛けや絵本を読んでもらうことなどにより言葉を理解したり、簡単な単語を使ったりする。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。 ○保育者に話し掛けられることを喜び、自分も同じ言葉を使ってみようとする。 ○保育者の話し掛けや絵本を通じて、リズムのある言葉や繰り返しの言葉に興味をもち、自分で言うことを楽しむ。
	創造 感性 イメージ 素材や表現方法との出会い など		○保育者と一緒に、水、砂、土、紙、小麦粉粘土など様々な素材に触れる。 ○保育者が歌ったり手遊びをしたりしてくれるのを喜び。	○ちぎる、破く、クレヨンでなぐり描きをするなどの手や指先を使った遊びを十分に楽しむ。 ○砂遊びや水遊びなどを楽しみ、様々なものの感触を楽しむ。 ○保育者と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びを楽しんだりする。	○のりやはさみなどに興味をもち、保育者と一緒に使いながら、遊びを楽しむ。
生きる力の基礎	協同 共感 調整 自己理解 他者理解 など	○あやされることを喜び、声を出したり笑ったりする。	○保育者と視線を合わせ、表情や喃語などを通してやり取りを喜び。	○生活や遊びの中で保育者を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。 ○保育者と触れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを通わせる。	○一人遊びを楽しみながら、保育者が仲立ちとなり、友達にも関心をもって遊ぶ。
	信頼 自己表出 受容 自信 思いやり など	○声や泣き声で自分の欲求を表し、なだめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。	○心地良いときは笑ったり、ほほえんだりし、不快なときは泣いて欲求を表す。 ○保育者の語り掛けや働き掛けに、声を出したり、応えようとしたりする。	○表情や身振りなどで自分の気持ちを表したり、簡単な言葉を使ったりする。	○自分がしてほしいことを身振りや言葉で伝える。 ○自分で表した気持ちや欲求を受け止めてもらうことを喜び。
生きる力の基礎	規範 善悪に気付く きまり ルール など	○落ち着いた雰囲気の中で、抱く、あやす、語り掛けるなどをしてもらうことで、安定した気持ちと喜びを味わう。			
	基本的な生活習慣 生活リズム 安全 健康 自立 など	○安心して寝入ったり目覚めたりする。 ○乳汁以外のものを飲んだりスプーンに慣れたりする。 ○オムツがぬれていたり、汚れたりしたときに取り替えてもらい、気持ちよさを感じる。	○ほぼ決まった時間に眠り、機嫌よく目覚める。 ○一人一人の状態に応じた離乳食を食べることで、いろいろな食品の味や形態に慣れる。 ○食べることに期待をもち、お腹がすいたら催促をする。	○一定時間午睡をする。 ○いろいろな食べ物に興味をもって口に入れてみる。 ○スプーンやフォークを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。 ○おしっこが出ると言葉やしぐさで教えたり、嫌がらずにおまるや便器に座ったりする。	○楽しい雰囲気の中で、様々な食べ物を食べてみようとする。 ○食べ物の種類により、スプーン、フォークなどを使って食べる。 ○保育者に見守られ、トイレでの排泄に慣れる。 ○パンツやズボン、前開きやかぶりものの服の着脱の仕方を知り、一人でしてみようとする。 ○自分の所持品（タオル、コップなど）を保育者と一緒に支度する。 ○保育者の表情や言葉掛けで、危ないことに気付く。
運動 体を動かす楽しさ 体力 など	○活発に手足を動かしたり、腹ばいで身体の前を手をついて上体をそらしたり、寝返りをしようとしたりする。	○寝返り、お座り、はいはい、高ばい、伝い歩きなど、体を動かす。	○歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど全身を使った遊びを十分に楽しむ。	○保育者と一緒に身近な遊具や用具にかかわって遊んだり、戸外で十分に体を動かすことを楽しんだりする。	

発達の主な特徴		3 歳児		4 歳児		5 歳児	
		自分なりの表し方やかわり方が十分に楽しめるように		先生や友達と一緒に生活する楽しさを大切に		友達と力を合わせて生活を進めていけるように	
生きる力の基礎と 子供の発達に応じて 確実に経験させたい 内容の視点	確かな学力につながる 「学びの芽生え」	興味・関心 好奇心 探究心 など	○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。	○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。	○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指先の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しを持ち、友達と相談し活動を発展させていくようになる。 ○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。		
			○身近な草花や小動物、自然現象に興味をもってかかわる。 ○身近な事物に関心を持ち、触れる、集める、並べるなどして遊ぶ。 ○身近なものに触れ、見立てたり偶然できたもので遊んだりすることで、物の感触や形、使い方などに興味をもつ。 ○園内の身近な表示に関心をもつ。 ○生活や遊びの中で数や量などの違いに気付き、興味をもつ。	○自然の美しさに触れて感動したり、自然物を使って遊ぶことを楽しんだりする。 ○身の回りの物の色、形などに興味を持ち、集める、分ける、組み合わせるなどしながら遊ぶ。 ○重い、軽い、固い、柔らかい、伸びる、縮むなどの物の性質に気付き、遊びに取り入れる。 ○身近な道具の使い方がほぼ分かり、様々な場面で積極的に使おうとする。 ○気に入った絵本や図鑑などに興味を持ち、繰り返し見て楽しむ。 ○具体的な物を通して、数や量などに関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりすることを楽しむ。 ○保育者や友達の話について親しみをもって聞く。	○身近に起こる様々な事象に関心を持ち、疑問に思ったことなどを試したり調べたりする。 ○物の性質や仕組みについて考えたり気付いたりし、遊びに生かす。 ○目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなどして工夫して取り組む。 ○ゲームや遊びの中で数を数えたり、文字に触れたりすることなどを通して数や文字に興味を持ち、必要感をもって遊びに使う。		
			○話しきりをもって保育者の話を聞いたり、困ったことやしてほしいことを言葉で伝えたりする。 ○「入れて」「貸して」など身近な生活の中で必要な言葉に気付き、自分も使ってみる。 ○挨拶などをする楽しさを感じる。 ○絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりすることを楽しむ。	○遊びや生活に必要な言葉の意味が分かり、すすんで使う。 ○保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、保育者や友達と会話を楽しんだりする。 ○絵本、歌などの中で言葉の面白さに気付き、繰り返し声に出して楽しむ。 ○絵本や紙芝居などの内容やストーリーに興味を持ち、イメージを広げて楽しむ。	○友達のことを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら話すことを楽しむ。 ○遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるように話し方や言葉を考えて伝えようとする。 ○聞いて心地よい言葉やうれしい言葉があることに気付き、自分も使おうとする。 ○すすんで挨拶をしたり、みんなの前で話をしたりする。 ○様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。 ○絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わったり自ら表現したりして、言葉の面白さや美しさを味わう。		
	感性 イメージ 素材や表現方法との出会い など	○身近な素材や用具を使って好きなように描いたり作ったりして楽しむ。 ○動物や乗り物など、身近なものの動きを模倣して、体で表現することを楽しむ。 ○保育者と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりなどして遊ぶ。	○様々な素材にかかわり、作った物を使って遊んだり、保育者や友達と一緒に身の回りを飾ったりして楽しむ。 ○自分なりに工夫して表現することを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、体を動かす、簡単なリズム楽器を鳴らすなどして楽しむ。 ○絵本等の中の人や身近な動物などになりきって遊んだり、音楽やリズムに合わせて動いたりすることを楽しむ。	○様々な素材や用具を利用して、自分なりに描いたり作ったりすることを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、踊る、楽器を鳴らすなど、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。 ○友達と一緒に工夫して描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり飾ったりする。 ○物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、友達とイメージを出し合ったり遊んだりすることを楽しむ。			
		○保育者や友達と一緒に活動することを喜ぶ。 ○同じ場所にいる友達とかかわり、触れ合って遊ぶことを楽しむ。 ○保育者や友達と、使う物を一緒に運んだり片付けをしたりする。 ○安心感をもって伸び伸びと自分を表して行動する。	○仲の良い友達の中で、思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○うまくいかないことや葛藤場面を通じて、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ○自分から友達に何かをしてあげたり、してもらったりすることを喜ぶ。 ○クラスの友達と声や動きなどがそろう心地よさを感じる。	○友達との考えの違いやうまくいかない経験を通じて、友達と工夫したり折り合いを付けたりしながら、問題や課題を乗り越えようとする。 ○友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げる充実感を味わう。 ○共通の目的をもって遊ぶ中で友達の思いや考えを受け入れ、一緒に遊びを進めることを楽しむ。 ○友達と活動する中で、互いのよさを認め合う。 ○一人ではできないことが友達と一緒にだとしてできる喜びや満足感を味わう。			
		○したことや感じたことなどを、保育者に受け止められ、安心感をもつ。 ○自分の思ったことや感じたことを言葉や行動など、自分なりに表現しようとする。 ○身近な様々な人と触れ合うことを喜ぶ。 ○自分なりにやってみて、できた喜びを十分に味わう。	○保育者や友達の言っていることや考えていることを受け止めて行動しようとする。 ○異年齢の子供に親しみをもったり、すすんで遊んだりする。 ○園内の大人や地域の方などに親しみを持ち、一緒に活動する楽しさを感じる。 ○自分なりにやり遂げた満足感や、身近な人に認められることを通して、自信をもつ。	○自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ○身近な友達とかかわりを深めるとともに、異年齢の子供など、様々な友達とかかわり、思いやりや親しみをもつ。 ○高齢者をはじめ地域の方など、自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 ○繰り返し挑戦して達成したり、様々な人に認められたりすることを通して、自信をもつ。			
	豊かな人間性につながる 「人とかかわり」	○生活や遊びの中での簡単なきまりがあることを知り、それを守ろうとする。 ○友達の反応や保育者の働き掛けから、やって良いことと悪いことが分かる。 ○遊具や用具の貸し借りや、交代する、順番を待つなどをすることで、楽しく遊べるのが分かる。 ○みんなで使う物があることが分かり、一緒に使おうとする。	○友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ○簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ○やって良いことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 ○共同のものを大切に、みんなで使う。	○友達と一緒に遊びを進展させる中で、自分たちで遊び方やきまりをつくり出し、守って遊ぶ。 ○やって良いことと悪いことがあることが分かり、考えながら行動する。 ○共同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。 ○生活に必要なことを友達と一緒に進め、自分の役割を果たすことに喜びを感じる。			
		○楽しい雰囲気の中で、食べ物をすすんで食べようとする。 ○身の回りの清潔や衣服の着脱、食事、排せつなど生活に必要な活動が自分でできることを喜ぶ。 ○保育者の援助を受けながら、危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。	○食べることを楽しみ、食べ慣れない物や嫌いな物でも少しずつ食べようとする。 ○遊びや生活に必要な準備や片付けなど、やり方が分かりすすんで行おうとする。 ○自分の健康に関心を持ち、うがい、手洗いや衣服の調整などをすすんで行う。 ○園生活のきまりや危険なことが分かり、約束を守って行動する。	○健康と食べ物の関係に関心を持ち、何でも残さずに食べようとする。 ○身の回りの物の始末や片付けの必要性が分かり、見通しをもってすすんで行う。 ○うがいや手洗いなど病気の予防に必要な活動を理解し、すすんで行う。 ○危険な物や場所、遊び方が分かり、状況を判断して、安全に気を付けて遊ぶ。			
		○保育者と一緒に戸外で体を動かすことを喜ぶ。 ○身近な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ○自分なりに体を動かす心地よさを味わう。	○いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ○遊具、用具などを使い、様々な動きを組み合わせる積極的に遊ぶ。 ○簡単なルールの下で、体を動かす遊びを楽しむ。	○戸外で、友達と一緒にすすんで様々な運動や遊びをする。 ○様々な運動用具をすすんで使い、工夫して遊ぶ。 ○自分の目的に向かって繰り返し挑戦したり、チーム対抗の遊びを楽しんだりする。			
	健康・体力につながる 「生活習慣・運動」	○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。	○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。	○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指先の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しを持ち、友達と相談し活動を発展させていくようになる。 ○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。			

生きる力の基礎と 子供の発達に応じて 確実に経験させたい 内容の視点	発達的主要特徴		小学校入門期 安心して生活し、自信をもって自己表現ができるように
			○学校には、きまりや時間割などがあることに慣れ、適応しようとする。 ○同年齢の仲間のほか、多くの出会いがある中で、相手に親しみをもってかわらうとする。 ○先生に質問したり、先生の言うことを聞いて行動したりしながら、自分自身のことを知ってもらおうとする。 ○各教科等の学習に興味・関心をもって取り組もうとする。
生きる力の基礎	確かな学力につながる 「学びの芽生え」	思考 興味・関心 好奇心 探究心 など	○目の前にある物事について見通しをもつとともに、試行錯誤しながら筋道立てて考える。 ○学校探検や朝顔の栽培などの体験を通して、自分と身近な人々や自然とのかわりに関心をもつ。 ○50音のひらがなを習得し、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○具体物や絵、図などを用いた活動などを通じて、数についての感覚を豊かにする。
		言葉 話す・聞く 伝え合う 言葉に対する感覚 など	○興味・関心をもった身近なことについて意欲的に話したり聞いたりする。 ○相手に応じて、事柄の順序に気を付けながら話したり、大事なことを落とさないように興味をもって聞いたりする。 ○姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりとした発音で話す。 ○内容の大体をつかみ、創造を広げながら読む。 ○物語や昔話、神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞き、話の面白さや語り口調、言い回しなどを楽しむ。
		創造 感性 イメージ 素材や表現方法との出会い など	○身近な材料や扱いやすい用具を用いて、感じたことや想像したことを思いのままに表現することを楽しむ。 ○わらべ歌や身体を動かしながら歌う喜びを味わい、音楽の楽しさに触れる。 ○身近な楽器に関心をもち、音色のよさや面白さを感じて演奏する。 ○遊びに使う物を作ったり、遊び方を工夫したりしながら、楽しく過ごす。
	豊かな人間性につながる 「人とのかわり」	協同 共感 調整 自己理解 他者理解 など	○楽しく学校生活を送るために、周りの友達と仲良く助け合い、課題を解決しようとする。 ○働くことのよさを感じて、みんなのために働くなどして学級生活を楽しくする。 ○気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 ○互いの意見をよく聞いたり、気遣ったりして、仲良く助け合って話し合いを進める。
		信頼 自己表出 受容 自信 思いやり など	○幼い子供や高齢者など、身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○自分でできるようになったことや生活での自分の役割が増えたことなどを喜び、自分の成長を支えてくれている人々に気付き、感謝の気持ちをもつ。 ○父母や祖父母を敬愛し、すすんで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 ○先生を敬愛し、家族や友達、地域の様々な人と慣れ親しむ。
		規範 善悪に気付く きまり ルール など	○よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことをすすんで行う。 ○してはならないことはしないで、素直に伸び伸びと生活する。 ○約束やきまりを守り、みんなで使う物や場所、施設を大切に使う。
	健康・体力につながる 「生活習慣・運動」	基本的な生活習慣 生活リズム 安全 健康 自立 など	○早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身に付けようとする。 ○笑顔で挨拶、元気に返事、きれいに後始末をしようとする。 ○健康安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで規則正しい生活をしようとする。 ○自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりとやろうとする。
		運動 体を動かす楽しさ 体力 など	○誰とでも仲良く、健康・安全に留意して意欲的に運動をする。 ○簡単なきまりや活動を工夫して、楽しみながら各種の運動をする。 ○体づくり運動、器械・器具を使つての運動遊び、走・跳の運動遊び、水遊び、ゲーム、表現リズム遊びなどを通じて、基本的な動きを身に付ける。

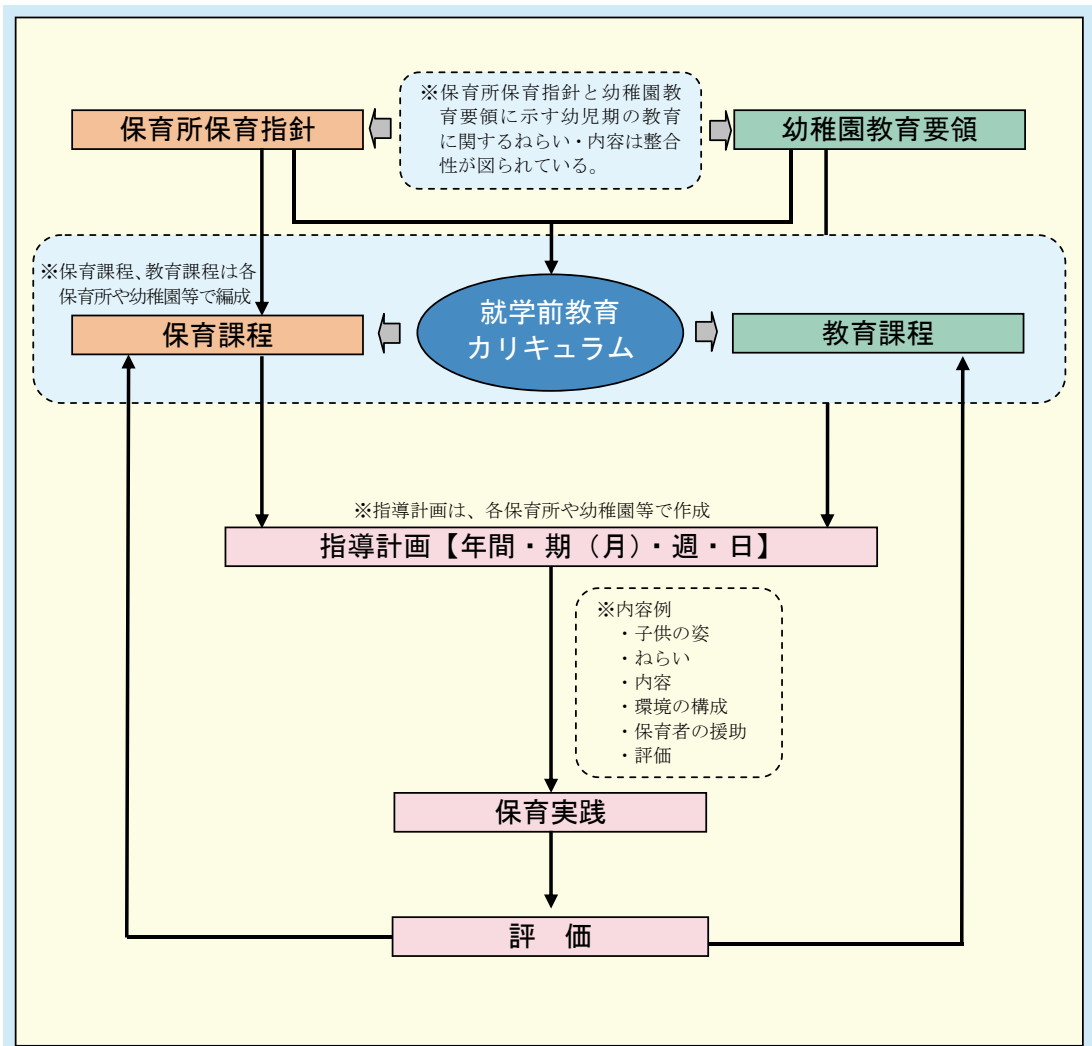
3 就学前教育カリキュラムを活用した保育・教育課程の編成

保育所保育指針及び幼稚園教育要領は、保育所や幼稚園等の保育・教育の基本とその内容を示したものです。これを基に、各保育所や幼稚園等が保育課程や教育課程を編成し、それに基づいて具体的な指導計画を作成して実践し、その評価を行い、更に次の計画に反映させて改善を図ります。

本カリキュラムは、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導例を示したもので、各保育所や幼稚園等が編成する保育課程や教育課程に相当するものです。

各保育所や幼稚園等においては、小学校教育との接続を踏まえ、「生きる力の基礎の育成」や「発達や学びの連続性」などの視点から保育課程や教育課程を編成する際に、本カリキュラムを積極的に活用することが期待されます。

また、家庭教育においては、幼稚園に入園するまでの期間や就学するまでの期間において、本カリキュラムで示した乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容を参考に子育てを行うことも考えられます。



4 就学前教育プログラムと就学前教育カリキュラムの位置付け

東京都教育委員会は、平成22年度に、就学前教育プログラムを開発しました。本プログラムは、就学前教育と小学校教育との接続期に焦点を当て、保育所や幼稚園等に在籍する子供の小学校生活への適応を図ることを目指し、就学前教育と小学校教育との円滑な接続のための保育所や幼稚園等と小学校との具体的な連携の方策を示したものです。

「就学前教育プログラム」における連携の方策の視点

○視点1…幼児と児童の交流

→児童への憧れや小学校生活への期待感を高めるための幼児と児童の交流

○視点2…保育士・教員の連携

→相互理解と指導の接続を図るための保育所の保育士、幼稚園の教員と小学校の教員との連携

○視点3…保護者への理解啓発

→家庭教育を支援するための小学校の生活や学習についての保護者への理解啓発

※「就学前教育プログラム」閲覧ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr100422sy.htm>

それに対して、就学前教育カリキュラムは、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導例を示したもので、各保育所や幼稚園等が編成する保育課程や教育課程に相当するものです。

各保育所や幼稚園等においては、保育課程や教育課程を編成する際に、就学前教育プログラムを活用して、小学校教育との円滑な接続のための連携の取組として、「幼児と児童の交流」「保護者への理解啓発」「保育士・教員の連携」について具体化していくことが望まれます。

【イメージ図】「就学前教育プログラムと就学前教育カリキュラムの位置付け」

